

## 働き盛り世代の健康を支援する、職域ヘルスプロモーション

ふくだ ひろし  
福田 洋 (順天堂大学 医学部 総合診療科)

【はじめに】産業衛生は特定の職業や作業に起因する職業病との戦いの歴史であり、その活動は「安全」に力点が置かれて来たように思う。しかし現代において「安全」と「健康」が、産業衛生の両輪であることに疑問を持つ人はいないであろう。日本経済は、高度成長期、バブル期を経て、低成長・高ストレス・高齢化の時代に入り、昨今のメンタル・メタボ・タバコ対策、エイジングへの対応などの健康課題と、これを扱う職域ヘルスプロモーション (Workplace Health Promotion, 以下 WHP) の重要性は増していると思われる。

【WHP の世界の動向】第 28 回 ICOH (国際産業衛生学会、2006) で Sorensen 教授 (ハーバード大) は "Integrating Occupational Health and Safety (OHS) and Worksite Health Promotion (WHP)" と題する基調講演で、現代の労働者の健康問題の解決のために、OHS と WHP の統合の必要性を述べた。日中韓産業衛生学術集談会でも、WHP をテーマとしたワークショップが開催されて来た。比較的課題や環境に近い韓国において Kang Sook Lee 教授 (Catholic 大学) が紹介した Web を用いた行動変容プログラムは、特定保健指導等で用いるツールと近いものであった。また、WHO の "Healthy Workplace Framework and Model" (2010) では、ILO (国際労働機関) での安全衛生の取り組みと、アルマアタ宣言やオタワ憲章から始まるヘルスプロモーションの取り組みについて、ともに労働者の健康を改善させるための歴史として併記されている。「労使による主体的・前向きな改善により、すべての労働者が肉体的、精神的、社会的な健康と安全を堅持・増進できる職場が重要」と述べ、OHS と WHP の統合により Healthy Workplace が推進されることが望まれている。カンクン憲章が採択された第

30 回 ICOH (2012) でも WHP のセッションでは、メキシコやインド、スウェーデン、セルビア等各国から WHP の発表がなされ、世界的にも WHP のニーズは高まってきていると言える。

【エビデンスに基づく WHP】健康教育・ヘルスプロモーション領域におけるエビデンスをレビューした IUHPE の "Evidence of Health Promotion Effectiveness" では、WHP に関する論文も 58 題取り上げられ、禁煙、高血圧、運動、減量等の分野で介入効果ありとしている。しかし、我が国の WHP に対するエビデンスは不足しており、当学会による健康教育研究のレビューでも、他の公衆衛生領域と比べ、地域保健 (38%) 学校保健 (27%) に対し、産業保健 (16%) と少ない結果であった。

【働き盛りの健康を支援する WHP への期待】勤労者数が人口の半数以上を占め、職域の定期健診の有所見率が 50% を超える現状で、勤労者の健康確保が重要であることは明白である。WHP の成功のためには、CSR (Corporate Social Responsibility)、企業ブランドの向上、優秀な新卒人材確保、プレゼンティーズム等の生産性指標の改善など、企業のインセンティブになる形で、経営ビジョンと合致した取り組みが必要となる。また WHP を通じて、入社から退職まで一貫して従業員のヘルスリテラシーを高めることは、学校保健、地域保健の健康教育、ヘルスプロモーションと連続した国民の健康を高める取り組みになることが期待される。このシンポジウムでは、メンタル、食事、運動などをターゲットとした各企業の良い実践を通じて、WHP 活性化とそのエビデンス蓄積のコツやアイデアを共有、議論したい。

<参考文献>福田洋. 職域におけるヘルスプロモーション. 保健の科学 52(6):374-379, 2010.

E-mail ; [hiro---@kt.rim.or.jp](mailto:hiro---@kt.rim.or.jp)